

## 第20回 市民公開講座を開催しました

令和8年2月12日(木) 健都ライブラリーにて、第20回市民公開講座を開催しました。テーマは「知っておきたい「がん」のこと」でした。当院消化器外科(上部)主任部長 西川 和宏が「がん治療」について、講演を行いました。22名の方が参加され、熱心に話を聞いておられました。

### テーマ

知っておきたい  
「がん」のこと

高齢化が進み2人に1人はがんになる時代になっており、年々がんにより亡くられる方も増え続けております。市立吹田市民病院でも、多くのがん患者さんを治療しております。

今回は、がん治療における現状、予防の可能性がある生活習慣の改善や早期発見につながる検診の重要性についてお話ししました。また皆さんにがん治療を提供できるようにがん領域の治験や臨床試験にも取り組んで、その一端を御紹介しました。



消化器外科(上部)  
にしかわ かずひろ  
主任部長 西川 和宏



(病院長挨拶の様子)



(講演の様子)

## かかりつけ医をお持ちですか？

### かかりつけ医を ご紹介します

当院は地域医療支援病院として、地域の病院や診療所との機能分担を推進しています。また、急性期病院として専門的な医療を提供する機能を担っており、症状が安定した患者さまには地域のかかりつけ医をご紹介します。

かかりつけ医をお持ちでない患者さまは、お気軽に患者支援センターまでお越しください。



日頃の健康状態を知っていて、気軽に何でも相談できる地域の医療機関(診療所・クリニック)「かかりつけ医」がいれば、体調等に関して様々なことが相談できます。また、入院や精密検査が必要な場合は、症状に合った適切な医療機関を紹介してくれます。

患者支援センターでは近隣の「かかりつけ医」を御案内しています。また、当院ではかかりつけ医が必要だと判断した場合に診察予約・検査予約をしていただいています。

ホームページよりアクセスしていただき、当院の登録医療機関を気軽に検索していただけます。ぜひかかりつけ医をお持ちでない患者さんは、御活用ください。

かかりつけ医検索システムはコチラ→



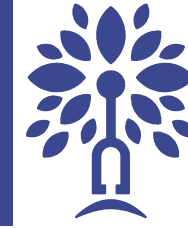
## 当院におけるがん診療について

当院は、がん医療水準の向上及び安心かつ適切ながん医療が選択できることを目的として大阪府が指定する「大阪府がん診療拠点病院」に認定されています。がんについて、当院ホームページにて解説をしていますので、記載のQRコードから御確認ください。

当院ホームページ  
「知っておきたい「がん」のこと」→



# 吹田市民病院 だより No.98



〒564-8567 吹田市岸部新町5番7号  
TEL (06)6387-3311  
FAX (06)6380-5825  
メール shomu@mhp.suita.osaka.jp  
ホームページ  
https://www.suitamhp.osaka.jp



## 肺がんは 珍しい病気では ありません！



肺がんは、日本で多くの方がかかる「がん」のひとつです。特に高齢化や喫煙歴等に伴い、患者数は増加しています。しかし、近年は検査技術や治療法が大きく進歩しており、早期に発見できれば治癒を目指す時代になっています。「咳が続くだけだから大丈夫」「年齢のせいかな」と思っていた症状が、実は肺がんのサインであることもあります。まずは肺がんについて正しく知り、早めの受診につなげることが大切です。(年齢調整り率※1は、男性で前立腺169.8人、大腸142.3人、肺135.2人、胃118.1人、膵臓39.7人(図1)。女性では、乳房151.1人、大腸89.7人、肺55.2人、子宮46.7人、胃42.3人(図2))

※1 高齢化の影響をなくし、時代や地域による「がんの増え方・減り方」を正しく比べるための指標



呼吸器・リウマチ科  
てつもと さとし  
鉄本 訓史(部長)

図1 男性における部位別り患率TOP5

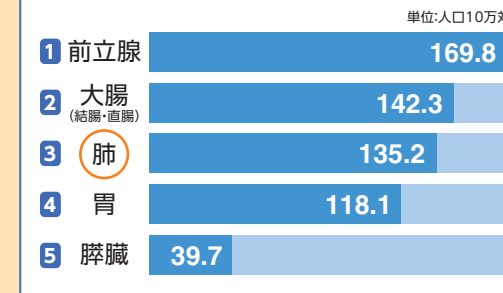
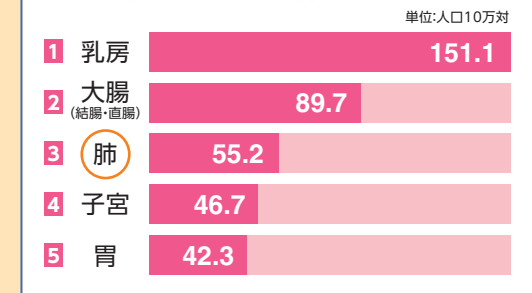


図2 女性における部位別り患率TOP5



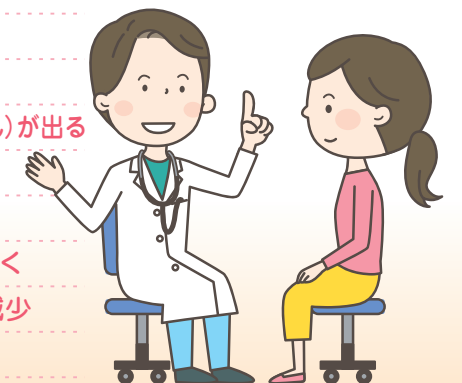
出典:厚生労働省令和5年全国がん登録 罹患率・率 報告CANCER INCIDENCE OF JAPAN 2023年資料を基に作成

## 肺がんの 初期症状とは？

肺がんは初期には症状が出にくい病気です。健康診断や胸部レントゲンで偶然見つかることも少なくありません。一方で、次のような症状が続く場合は注意が必要です。

### このような症状はありませんか？

- 咳が長く続く
- 痰(たん)が増える
- 血の混じった痰(たん)が出る
- 息切れがある
- 胸の痛みがある
- 微熱やだるさが続く
- 原因不明の体重減少
- 声がかすれる



風邪や気管支炎と  
思っている、症状  
が長引く場合(2週間  
以上)は一度医療機  
関を受診しましょう。



## 肺がんの治療について



肺がん治療の方法は  
どのように決まりますか？

肺がんの治療は、がんの種類や進行度、患者さんの体力等を総合的に判断して決定します。現在は、呼吸器・リウマチ科・呼吸器外科・放射線科等が連携し、一人一人に適した治療を行っています。



## 内科的治療

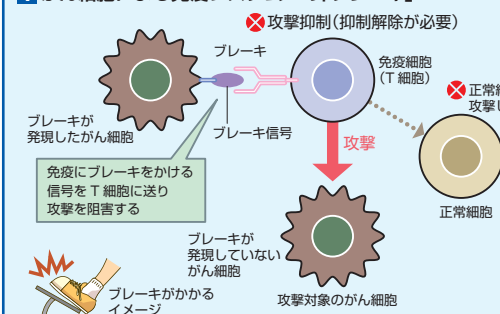
### 薬物療法(抗がん剤治療)

点滴や内服薬を用いて治療を行います。近年は、がんの特徴に合わせた「分子標的治療薬※2」や、免疫の力を利用する「免疫チェックポイント阻害薬」等、新しい治療法が進歩しています。副作用対策も進歩しており、外来通院で治療を受けられる患者さんも増えています。

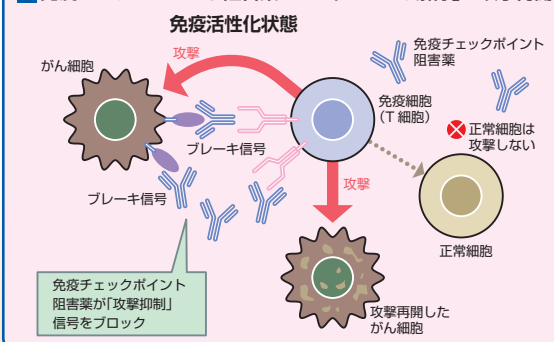
※2 病気の原因だけを狙い撃ちする薬

#### ●免疫チェックポイント阻害薬の働き

##### 1 がん細胞による免疫システムへの「ブレーキ」



##### 2 免疫チェックポイント阻害薬による「ブレーキ解除」と攻撃再開



### 放射線治療

放射線を照射してがんを小さくしたり、症状を和らげたりします。身体への負担を抑えながら治療を行える場合があります。

### 手術治療

早期肺がんでは、手術によって治癒を目指せることがあります。肺の一部または肺葉を切除する手術が行われます。近年では、胸腔鏡手術等、傷が小さく身体への負担を軽減した手術も普及しています。患者さんの年齢や肺機能等を十分に評価し、連携病院と協力しながら安全に治療を進めます。

### 当院の肺がん治療

当院では、呼吸器・リウマチ科・呼吸器外科・放射線診断科/放射線治療科・病理診断科等多職種が連携し、迅速で質の高い診療を行っています。

- 肺がん検診後の精密検査
- CT・気管支鏡による詳しい評価
- 肺がんバイオマーカー※3 各種検査
- 抗がん剤治療
- 免疫療法
- 放射線治療
- 手術治療(必要時は連携病院とも協力)
- 緩和ケア

※3 がんの目印を調べ、ピンポイントで効く薬を選ぶための指標

## 肺がんになりやすい人は？

肺がんの最大の危険因子は「喫煙」です。喫煙者だけでなく、周囲のたばこの煙を吸う「受動喫煙」も肺がんのリスクを高めます。また、以下のような方は特に注意が必要です。

### 特徴

- 喫煙歴がある
- 御家族に肺がんの方がいる
- 慢性閉塞性肺疾患(COPD)等の肺疾患がある
- 高齢者
- アスベスト等粉塵曝(りゅうばく)露歴がある



### ワンポイントアドバイス

禁煙は肺がん予防に最も重要です。何歳からでも禁煙による効果が期待できます。

## 健診・早期発見が大切です

肺がんは早期に発見できれば、手術等で根治が期待できる場合があります。そのため、症状がなくても定期的な健診を受けることが重要です(図3)。また、健診の胸部レントゲンで異常が認められた場合、以下のような検査を行い診断します。



### おもな検査

- 胸部レントゲン
- 胸部CT検査
- 喀痰(かたん)細胞診
- 気管支鏡検査

### 市町村による対策型検診で発見された肺がんは15.8%

「少し気になる症状がある」「健診で異常を指摘された」という場合には、呼吸器内科への受診をおすすめします。



図3 部位別発見経緯の割合比較(100%積み上げ)

